

# ちくさんスナップショット

平成 25 年 8 月 第 27 号 株式会社富士飼料

「たまニコ キャンペーン」中！

「若鶏会」（養鶏場の後継者の集まり。現メンバーは宮城県南の 7 人）は、7/30～8/9 までの期間、鶏卵業界の全国イベント「たまごニコニコキャンペーン」を担当しています。消費者へ「卵の正しい知識」「おいしい食べ方」を広める活動です。

8/8 と 9 日は仙台市五橋のお祭りにて啓蒙イベントを開催しますので、是非お出で下さい！ 明るい将来を自らで創造していく為の活動に取り組んでいます！



「たまニコ」は自転車で日本縦断しつつ、「卵を一日2個食べよう」啓蒙キャンペーンです。宮城は若鶏会が担当しています。

## 飲用向け乳価交渉は 「10 月から 5 円値上げで決着」

都府県の指定生乳生産者団体と大手乳業者による 13 年度飲用牛乳向け乳価交渉が 10 月から 5 円値上げすることで決着したと中央酪農会議が 7 月 2 日に発表しました。飲用牛乳向け乳価の引き上げは、08 年度（08 年 4 月に 3 円、09 年 3 月に 10 円）以来となります。ただし、飲用比率に応じるため生産者の手取りのプール乳価は 5 円よりも縮小します。

昨夏の米国の大干ばつに端を発した配合飼料価格の高騰をはじめ、今年の春先からの急激な円安の影響により生乳生産コストが急騰。都府県の指定団体は、今年度の飲用牛乳向け乳価交渉に当たり、飼料高騰などの生乳生産コストの上昇額を根拠に、おおむね 6～7 円の引き上げを要求してきましたが交渉は難航しました。

背景には、景気は着実に回復していると報道されているものの、依然として消費者の低価格志向は強く、牛乳においても、乳価を値上げした場合、乳業者は納入価格に転嫁せざるを得ないが、市場競争の激化により量販店など小売・流通側の理解を得ることが困難であったようです。

今回の乳価引き上げにより、牛乳の小売価格へ転嫁される際に消費減退が懸念されることについて、中央酪農会議は「酪農・乳業が持続的に経営するためには、コストを反映した価格でなければならない。乳業者の価格転嫁の動きに対し、生産者団体としてできる限り側面から支援する」と説明。中酪は今後、流通業や消費者に対して、酪農生産現場の厳しい状況に理解を得るため活動を強化する考えを示しています。

## いわてミルクランド協議会様の定期交流会レポート

先日岩手県の酪農家さん達のグループ、いわてミルクランド協議会様の定期交流会に参加してきました。今回は岩手県の盛岡種雄牛センターの見学会になりました。

あいにく、防疫の関係上建物内の見学は出来ませんでしたが、ホル 2 頭、和牛 1 頭の種牛が建物外まで連れ来てもらい、見学することが出来ました。ホルの種牛の大きさに皆びっくりです。説明によると、一回で 500 本作れ、現在では外国にも出荷しているそうです。施設内では約 200 頭飼育されているとの事。

見学会のあとは施設内でバーベキューをして、会員同士の親睦を深めることが出来、とても有意義な交流会となりました。